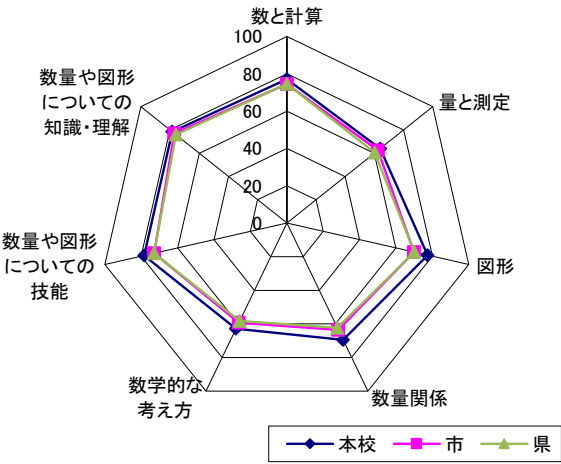


宇都宮市立富士見小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.1	74.5	74.6
	量と測定	64.0	62.4	60.4
	図形	77.4	69.9	70.1
	数量関係	69.5	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	62.9	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	78.4	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	78.6	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本領域の平均正答率は77.1%で、県の正答率を2.5ポイント上回った。 ○短答式問題は、すべての内容で県の正答率を上回った。 ●たし算・ひき算を使って問題に説明して回答する記述式の問題では、平均正答率は20.7%と県の正答率を2.5ポイント下回った。	・長文の問題を筋道立てて考えられるよう、発展的な学習を丁寧に扱っていく。 ・数直線等で、数の大きさにふれる機会を増やす。 ・より正確に計算できるよう、反復して問題を解く時間を確保する。
量と測定	○本領域の平均正答率は64.0%で、県の正答率を3.6ポイント上回った。 ○「木の幹の周りの長さを測るのに適した道具を選ぶ」問題では、正答率が89.7%と、県の正答率を3.4ポイント上回った。 ●「ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める」問題では、正答率が41.4%と半分以下であった。	・教具等を活用し、一人一人が実測して確認できる時間を確保する。 ・どの情報を用いれば答えにたどり着くのか、判断ができない児童については、TTを活用して個別に指導を行う。
図形	○本領域の平均正答率は77.4%で、県の正答率を7.3ポイント上回った。 ○「箱に入った同じボールの半径の長さを選ぶ」、「正方形に内接する円の直径の長さを選ぶ」、「与えられた1辺の続きをかいて正三角形を完成させる」問題では、それぞれ県の正答率を上回った。 ●「折り紙を2つに折って切った後、広げてできる形を選ぶ」問題では、75.9%と県の正答率を4.2ポイント下回った。	・図形に関する理解や考え方を深めるため、形を分類したり、作図したりするという活動を積み重ねさせる。それに合わせて、罫線、ドット、白紙等色々な作図用紙に対応できるような機会を確保する。
数量関係	○本領域の平均正答率は69.5%で、県の正答率を7.2ポイント上回った。 ○「棒グラフからわかることとして正しい内容を選ぶ」問題では、平均正答率は79.3%と県の正答率を13.9ポイント上回った。 ●「棒の高さが同じでも表す人数は異なることを説明する」問題では、平均正答率は26.7%と県の正答率を4.5ポイント下回った。グラフを読むことはできても、2つのグラフを比較して、違いを説明することが難しいと感じる児童が散見される。	・グラフの読み取りの技能の習得にとどまらず、グラフを比較し、共通点や相違点を考えさせるなど、グラフを活用した指導を行う。